

年頭挨拶



社団法人山梨県自動車整備振興会
山梨県自動車整備商工組合
会長 萩原公明
理事長

新年おめでとうございます。

平成23年度の年頭にあたりまして、新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は振興会・商工組合の諸事業の実施に格別なご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、全国各地で夏の平均気温が史上最高を記録し、局地的集中豪雨や竜巻災害など経験のない環境変化に遭遇しました。

こうした中、国内経済は、前半は政府の総合経済対策や景気浮揚策によりゆるやかな回復を示しました。

しかし、後半は先進国の財政悪化から急激な円高を招き、輸出の伸び悩みや国内消費の低迷からデフレ状況が続いています。また、雇用、設備投資も低調で輸出企業の海外進出と国内産業の空洞化が加速しています。政府には国民生活を守り、雇用安定とデフレからの脱却、確かな経済成長に繋がる施策の推進をお願いし、日本経済が活力を取り戻せるよう期待します。

こうした中、全国の車の保有台数は、総台数が減少に転じ、加えて車両の構成は、負担の軽い軽自動車と長期使用車の割合が増えています。

平成21年度の総整備売上高は、新車販売の低迷による関連整備の減少などにより、3年連続で減少し5兆5千億円を割きました。

一方、一昨年から景気・環境対策として始まったエコカー補助金や重量税などの減免措置の導入で、ハイブリッド（HV）車等の環境対応車を中心に新車販売の持ち直しが見られましたが、昨年9月の補助金終了の反動から新車販売台数は大幅な減少に転じています。県内の販売台数も全国と同様な状況で推移しています。

また、車検台数もエコカー補助金の13年超え車両の買替措置などで、幾分車検台数の減少はあるものの軽自動車の保有台数増加により、車検台数は若干の減少で推移しています。この傾向は今後も続くものと思われます。

昨年は「車ふれあい祭り2010」及び県下18支部全支部の参加の下、「第18回山梨県自動車整備技能競技大会」が開催されました。5,000人を超える自動車ユーザーの来場を頂くなど、所期の目的を達成することが出来ました。これらの成果・教訓を次回開催に向けて活かして参りたいと思います。

本年も業界団体として、自動車整備事業の環境をより良い方向に進める目的とし取り組んで参ります。また、車の安全確保、環境保全を図るための事業を引き続き推進して参りたいと考えております。

そして次世代のビジネス環境を見据えた電子整備体制の基盤作り、また、整備診断機器の利用促進など、これらに関連する故障探求や次世代車の技術勉強会を本年も実施して参ります。

公益法人法改正対応に向けた諸準備を進めるとともに、青年部の育成強化と会員、組合員の利便向上に向けた諸事業を充実して参りたいと存じます。

本年も自動車整備三団体が一体となり諸事業を推進して参ります。

会員・組合員の皆様のより一層のご理解・ご協力を願い申し上げます。

結びに、関係ご当局並びに関係機関の変わらぬご指導とご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健勝と本年のご活躍を心よりご祈念申し上げまして新年のご挨拶とさせて頂きます。

年頭の辞



関東運輸局山梨運輸支局
支局長 川口千晴

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、経済的には、年の前半、減税や補助金、エコポイントなど国の施策により、ハイブリット自動車などのエコカーや家電製品を中心に販売が伸び、景気が持ち直しつつありましたが、後半は急激な円高やエコカー補助金、エコポイントの終了などを受け、伸び悩みの状況となりました。

また、日本人2名のノーベル化学賞受賞や小惑星探査機「はやぶさ」の地球帰還などの明るいニュースもありましたが、日中関係の悪化や年間のGDPで世界第二位の座を明け渡すことが確実とみられる等、残念なニュースも聞かれた1年がありました。

昨年の山梨県は、新年早々、山梨学院大学附属高等学校のサッカーチームが全国一位になったのをはじめ、B級グルメにおいて、甲府鳥もつ煮がチャンピオンになり、さらには、年末にヴァンフォーレ甲府がJ1に昇格するなど、年間を通じて明るいニュースが飛び込んだ1年でした。

このような中で、山梨運輸支局といたしましては、地域交通の活性化・再生事業による地域住民の皆様の足の確保等各市町村の取り組み及び自動車の安全、安心を確保するため、関係機関、事業者、業界とも連携を密にしながら、「自動車点検整備推進運動」「不正改造車を排除する運動」を推進するなど、県内の自動車交通の安全・安心を第一に、地域公共交通の活性化・利便性の向上、自動車の安全性の確保、交通事故防止への取り組みを積極的に展開してまいりました。

また、昨年11月に横浜市において開催されました「2010年日本APEC首脳会議」の際に、鉄道、自動車、海上運送及び観光等各分野の皆さんに交通総量の抑制やテロ対策の徹底をお願いするなど、多大なるご協力をいただき、あらためて御礼申しあげます。

今後も引き続き、社会・経済情勢なども念頭におきながら、社会の要請に的確に対応した行政を推進し、その責務を果たす所存でありますので、皆様方の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

整備関係につきましては、昨年、関東運輸局長名及び技術安全部長名による不正行為の再発防止通達が発出されたので、指定整備事業者によるペーパー車検など、自動車整備事業者による不正行為防止の徹底を図るため、今後も引き続き各種研修会等あらゆる機会を捉え、適切な事業運営などについて強力に指導を行うとともに、悪質な違反行為等を行った自動車整備事業者に対しては厳正な行政処分を行うほか、法令遵守の徹底を図るよう指導してまいります。

また、点検・整備の必要性や不正改造の防止について、自動車ユーザー等にご理解いただけるよう、「自動車点検整備推進運動」及び「不正改造車を排除する運動」を積極的に展開するとともに、爆音をまき散らしたり過積載を助長したりするような不正改造車を排除するため、関係機関と連携して積極的に街頭検査を実施し、悪質な違反者に対して整備命令書を交付するなど、安全で環境にやさしい車社会の形成に向け取り組んでまいります。

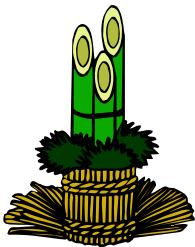
自動車の検査につきましては、自動車検査独立行政法人と連携を図りながらＩＴ化等による自動車検査の高度化を推進し、不正な二次架装や不正受検を排除するとともに、受検者に対して不合格内容を的確に情報提供するなど安全・安心の確保と環境保全を図りつつ質の高い利用者サービスの提供を促進してまいります。

また近年、地球温暖化問題に対する意識の高まりとともに、電気自動車の導入が盛んになってきており、特に低コストで既存車両を有効に活用できる等の利点から、エンジンや燃料タンクを取り外して、モーターと電池を取り付ける電気自動車への改造（ＥＶコンバージョン）が最近注目を集めていることから、これらＥＶ改造車の安全性、信頼性を確保し、安全で安心して使用できる環境対応車の普及促進を図ってまいります。

さらに、窓口業務の適正化・効率化を推進し、窓口行政サービスの向上に努めるとともに、自動車検査業務における受検者等からの不当要求に対しては、自動車検査独立行政法人と警察当局と連携して毅然たる態度で臨み、検査業務の適正な実施に努めてまいります。

以上、新年を迎えるにあたり、山梨運輸支局としての主要施策と所感の一端を申し上げましたが、当支局では職員全員が一丸となって、山梨県の安心・安全のため、また、自動車関係業界等の活性化のために国土交通行政を推進してまいりますので、今後も引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のあいさつ



軽自動車検査協会山梨事務所
所長 窪田正次

新年明けましておめでとうございます。

平成23年の新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は、軽自動車検査協会の業務運営につきまして、深いご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年は、電子情報処理システム更改が実施され、これに伴い、更なる申請者の利便性の向上を図るため、申請書様式などについて全面的に見直しを行いましたが、会員の皆様方のご協力により、窓口も混雑することなくスムーズに業務処理を行っているところでございます。

これも会員の皆様のご理解、ご協力の賜物と深く感謝する次第でございます。

また、昨年の軽自動車の新車販売は、国の施策としてエコカー減免処置やエコカーの補助金により、新車届出台数が前年を上回り、自動車保有台数も、右肩上がりで増えており、昨年11月末現在、全国の軽自動車の保有台数は2713万台(1.7%増)となり、山梨県の保有台数も29万台(1.8%増)に達し100世帯当たりの台数も86台と普及が進み、今後も使いやすく経済的な乗り物として、県民の日常生活の足として定着して行くものと思われます。

それに伴い本年の継続検査台数も、昨年より増加すると予想されますが混雑が生じないよう体制を整えてまいりますので、会員の皆様には、計画的に受検して頂きますようお願いいたします。

当協会としましても、自動車の安全の確保、公害の防止、環境の保全を図るため、厳正、公正な検査を行なうとともに、これからも利用者に対するサービスの向上に努めてまいりますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

終わりに当たり、山梨県自動車整備振興会の益々のご繁栄と会員の皆様方のご健勝を心より祈念申し上げまして、新年のあいさつとさせていただきます。